

“福祉とは人が幸せに暮らせるための援助です”

「あなたのまわりにお困りの方はいませんか？ そしてあなた手助けしてあげませんか？」

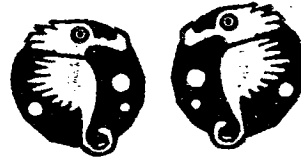
——地域の人が地域の人を支える地域の人のための活動を！！——

サポートセンターあおぞらの街 代表 明石洋子

(あおぞらハウス・ぞうさん・あおぞら・ウィズ 各運営委員長)

明けましておめでとうございます。今年もサポートセンターあおぞらの街に変わらぬご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

これまで『あおぞら共生会』として10年間、『あおぞらの街生活支援センター』として2年間、会員の相互扶助活動としての地域生活支援を行って参りましたが、この活動をより地域に根ざしたものにしていくために、今年はいよいよNPO法人（特定非営利活動法人）への申請を行います。これが神奈川県のように認められれば、4月頃にはNPO法人としての活動をスタートすることになり、より一層地域の皆様に必要とされる活動を展開して行かなければならないと、気の引き締まる思いがします。



さて新年のご挨拶にあたり、地域生活について日頃感じていることをここで少し述べさせて頂きたいと思ひます。

病気や障害を持った人そしてその家族が、普通の生活を望めば周囲から「わがまま」と言われてしまうことが多いように思えます。それは「わがままでなくて人間として当たり前」と思うような世の中にしたいと、この25年間、地域の中で、共に生き、共に学び、共に働き、人間として普通に生きる場を広げ、さらに暮らしのレベルアップも可能にしたいと取組んできました。

ノーマライゼーションの理念は、障害を持つものが、それを持たないものと同じように、社会の構成員として、地域の中で共に生活できることを目指すもので、日本でも今ようやくこの理念に基づいて福祉の基礎構造改革が進もうとしています。

ここで重視される考えは、「自己決定」（障害者自身の願いや意思を尊重する）の導入であり、行政による規制緩和と、地域重視です。今までの施設重視でなく、地域の中に一人一人の生き方に合わせた福祉へと、福祉の仕組みが大きく変わろうとしています。



「地域の誰もが、年をとっても、障害があっても、住み慣れた地域、家で、ごく普通に暮らしていき、最後までその人らしい生活が当たり前続けられる」そのような地域であればいいですね。

私達は「地域の人が地域の人を支える地域の人のための活動」すなわち「地域ケアをささえるシステムづくり」と「ボランティア活動」をこの地域に根付かせたいと思っています。

現在サポートセンターは補助金も助成金もありません。皆様からの会費と利用料が運営を支えてくれます。利用会員及び賛助会員になって下さい。地域から支持され信頼されれば、私たちが、地域に生きるために必要な、保育や教育等の制度を行政と一緒に作ってきたように、この地域生活支援も行政に交渉して制度化したいと思っています。

しばらくは、住みよい街づくりの為に「金も出す、汗も流そう」ですね。どうぞよろしく。



今後の運動の方向性

